



(四日市)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 木簡の年代
9 遺跡の種類
10 調査担当者
11 調査期間
12 所在地

三重・宮の西遺跡

- 1 所在地 三重県四日市市中川原二丁目
2 調査期間 一九八八年(昭63)三月～四月
3 発掘機関 四日市市遺跡調査会
4 調査担当者 春日井 恒
5 遺跡の種類 不明
6 遺跡の年代 弥生時代～室町時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

宮の西遺跡は、大小の河川によって形成された沖積低地の標高五
m前後の微高地上に所在する。市街地から西へ約一・五kmのところ
にあり、急速に宅地化が進

んでいる。

発掘調査は、分譲マンシ

ョンの建設に伴うものであ
り、調査面積は四五四m²で

あつた。調査において検出
した遺構は畦状遺構、土坑、
溝であるが、いずれも時期
を決定しうる伴出遺物はな

かった。出土した遺物は比較的多く、弥生時代から室町時代のもの
があるが、平安時代～鎌倉時代のものが最も多く、次いで奈良時代
のものが多い。また、低地に立地するため木質遺物の遺存状態が良
く、多量の木製品が出土している。遺物の内容は、土師器、須恵器、
灰釉陶器、山茶碗などの土器類が中心で、灰釉陶器には底部に墨書
のあるものが六点出土している。他に石帶、木簡、斎串、曲物等が
出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「柴田郷長右□」

(157)×22×6 0.9

木簡四点はいずれも調査区の北半の自然堆積土から出土したもの
である。柴田郷は、『和名抄』に見える伊勢国三重郡の郷名であり、
宮の西遺跡は柴田郷内に位置する。

9 関係文献

四日市市遺跡調査会『宮の西遺跡』(一九八八年)

(春日井 恒)



木簡 (1)